

## 一人暮らし高齢者の社会的孤立予防にむけた 仕組みの開発と評価

提案者 ▶ 社会福祉法人若竹大寿会、横浜市富岡東ケアプラザ

研究者 ▶ 医学部 看護学科 教授 田高悦子 准教授 有本梓 准教授 大河内彩子 助教 伊藤絵梨子  
助教 白谷佳恵 国際都市学系 准教授 三輪律江 准教授 中西正彦

### 地域課題

提案者（横浜市富岡東ケアプラザ）が所管する横浜市金沢区シーサイドタウン地区は、市のニュータウン計画事業により、臨海部の埋立て地に建てられた集合住宅からなる地区（H27年人口：約21,600人；世帯数：9600世帯）である。平成27年時点の65歳以上の割合（高齢化率）は、30.7%で市・区平均（22.8%）を大きく回り、また高齢者のいる世帯の割合は44.0%で同平均（40.0%）を上回っている。住民の約97%は集合住宅に住んでおり、うち3～5階建の住宅は約51%を占め、6階建以上の住宅は45%を占めている。現在、概ね築40年になる集合住宅の多くはエレベーターの設置がないか、あっても各階には止まらないなど、高齢者の外出を困難にしている。外出頻度が週1回以下で一日のほとんどを自宅内で過ごす生活像を学術上「閉じこもり」と呼ぶが、高齢者の「閉じこもり」は性、年齢、疾患等を調整してなお、歩行機能や認知機能の低下を促し、また身体・心理・社会的健康を低下させ、さらには社会的孤立や認知症の発生リスクを高めることが知られている。わけでも一人暮らし高齢者では、他の世帯の高齢者より社会的孤立等のリスクが高く、予防ならびに解決のための地域を基盤とした仕組みづくりは焦眉の課題である。

### 課題解決の方法

一人暮らし高齢者の社会的孤立等予防にむけた仕組み（地域における集いの場における立ち寄りコミュニケーションプログラム（仮称）および同プログラムを運用する地域ケアシステム（人材育成を含む））を開発し、臨地に実装の上、課題解決を図る。

### 実施内容

本事業の目的は、一人暮らし高齢者の社会的孤立等予防にむけた仕組み（地域における集いの場における立ち寄りコミュニケーションプログラム（仮称）および同プログラムを運用する地域ケアシステム（人材育成を含む））を開発し、そのアウトカムについて定性的かつ定量的に評価することである。

平成29年度は、提案者（横浜市富岡東ケアプラザ）が所管する横浜市金沢区シーサイドタウン地区における一人暮らし高齢者ならびに夫婦二人暮らし高齢者世帯のニーズを明確化するため、当該地区における地区診断（既存資料の分析）ならびに、一人暮らし高齢者、高齢者夫婦二人暮らし世帯を対象に、ニーズ調査（質問紙、インタビュー、GPS）を実施し、モデルプログラムのコンテンツを検討した。

### 成果・効果

地区診断においては、少子高齢化による人口減少の加速化や世帯の縮小に伴い、次代の担い手づくりを見据えた地域（体制）づくりの必要性が示唆された。また、介護保険認定者数の増加、要支援1、2の増加が推測されることから、「自立者」における要支援化への予防、「要支援者」における要介護化への予防に着眼した取り組み強化の必要性とその根拠を明らかにすることができた。

ニーズ調査においては、一人暮らし高齢者10世帯10人、夫婦のみ高齢者世帯5世帯10人を対象に、質問紙調査による健康状態や近隣との関係の把握、GPSを用いた生活時間調査などの定量的評価を行うとともに、インタビュー調査により高齢者の望む地域との交流について定性的評価を実施した。以上より当初計画どおりの成果を上げることができた。

### 今後の課題と展開

一人暮らし高齢者ならびに夫婦のみ高齢者世帯におけるニーズに基づくプログラムコンテンツを開発し、その妥当性ならびに有用性を検証していく。平成30年度事業に継続のうえ、展開する。